



KBS

ケイビーエス株式会社

www.kbsjapan.com

【社内報ナルゲ】

날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。

날개
nalgae

vol.55
January 2022

2022
謹賀新年



過去を再発見しよう



最近、YouTubeで昔のミュージックビデオを鑑賞することにハマっている。10~20代の頃、80~90年代は洋楽ばかり聴いていたが、当時はもっぱらラジオやカセット、レコード、CDでしか聴くことがなかったので、映像と共に当時好きだった曲を聴くと、また新鮮に映るのだ。おすすめ機能で的確にツボを突いた動画を次から次へと勧めてくるので、一度鑑賞し出すとキリがない。10代の頃よく聴いていたABBAが40年ぶりに復活して新曲を出していたのもYouTubeで知った。便利になったものだ。

会社でも、過去の資料を掘り起こす作業で忙しい。創立50年を迎えながらも、その膨大な昔の資料の整理は後回しになっていた。ところがこのコロナ渦で仕事が減ったため、今のうちに整理しようと思っていた所へ、立命館大学の石川先生がKBSの歴史に興味を持たれて研究の参考にされるとのことで、過去の刷り取り等の成果物を

デジタル化して整理しようという事になったのだ。また、ちょうど大阪大学大学院の博士課程の学生からも、昔の在日韓国人関係の印刷物を研究テーマにしたいとのことで、整理作業に協力してもらえることになった。小さな一企業の実績が学術的な研究テーマになるというのは、誇らしく思うと共に、そんな価値があるものだったのかと再認識させられた。

かくして、会議室は昔の資料であふれ、整理する過程で昔の印刷物を見つけては当時の思い出に耽っていると、進む作業も進まなくなり……とまあ、ゆっくりとはあるが着実に整理が進んでいる。

いつかKBSの創業からの歩みをまとめて世に出せれば、創業者である亡き会長も天国で喜ぶのではないだろうか。

代表取締役 高 允 男

チョンビョンチェ
—鄭炳采さんに聞くケイビーエスの歩み—

石川 亮太

ハングル印刷から
多言語印刷・翻訳へ

ナルゲをご覧の皆さま、はじめまして。2021年の春からケイビーエスの資料の整理をお手伝いさせていただいています。大阪のグローバル化の歴史とともにあったケイビーエスの歩みに関心を持ち、ハングル印刷から多言語印刷への発展の過程について調べています。そのような調査の一環として、ケイビーエスの創業直後から1990年代までスタッフの中心で活躍された鄭炳采（チョン・ビョンチェ）さんにインタビューすることができました。

手動写植機の時代——

鄭炳采さんは1950年のお生まれで、現在までずっと生野区内にお住まいです。1973年にケイビーエスの前身である僑文社に入社され、まず手動写植機を担当されました。

手動写植機というのは、ガラス製の文字盤から必要な字を選び、写真を撮る要領で印画紙に焼き付けていく装置で、これを現像したものを切り貼りして印刷の版下とします。それまで活字を一つ一つ組んで印刷していた僑文社が、手動写植機を導入したのは1971年ということですから、鄭炳采さんは入社早々、新鋭の機械を受け持ったこととなります。

僑文社は当時、ハングル印刷を主としており、鄭炳采さんはお客様が持ち込まれたハングルの原稿を見ながら写植機に打ち込んでいました。ご自身もハングルを習い始めた頃で、横に辞書を置いて、それを引き引きの作業だったそうです。さらに印刷する以上は、文法的にも誤りのないように校正する必要がありますが、例えば単語と単語の間のティオスギ（띄어쓰기、分かち書き）をどこに入れるか、教科書にあるハングル正書法の規定とお客様の原稿が必ずしも一致するわけではなく、いつも気をつけていたとのことでした。

また最後の現像工程にも苦労されたそうです。会社には小さな暗室があり、そこで文字を打ち込んだ印画紙を現像するのですが、そこで光が入ってしまったり、逆に薄くしか文字が出てこなかったりすると、打ち込みからやり直すことになりました。現像液の温度も大事で、特に冬は現像液をお湯で温めてやらないと字が出てこないし、温めすぎ

ると字が濃くなりすぎるので、神経を使ったとお話してくださいました。

世界初のハングル電算写植——

1982年にはハングルの電算写植機が導入されました。電算写植機は、最終的に印画紙に文字を焼き付けて版下とする点で手動機と変わりませんが、オペレーターが文字盤から自分で字を探すのではなく、キーボードで入力すると機械が自動で字を探してくれるというものです。また手動機ではいったん打ち込んだ文字の取り消しができませんが、電算機ではいったん入力したデータを出力せずに保存しておき、あとで修正することができました。

その頃、日本語の電算写植機はありましたが、ハングルのものはまだありませんでした。角川書店が企画した『朝鮮語大辞典』の組版の仕事が僑文社に舞い込



●写植タイムス
1985年9月1日号

み、大量のデータの出し入れを伴う辞書の組版には電算処理が絶対に必要だと考えた故高仁鳳会長(当時社長)が、写植機のトップメーカーの一つである(株)モリサワに掛け合って共同開発に乗り出したそうです。そうしてできた世界初のハングル電算写植機が僑文社に納入されました。

鄭炳采さんは、改めて電算写植機の操作を修得し、その組版と出力の大半を担当することになりました。ところが、僑文社で導入したのは電算写植機の入力・校正機だけで、印画紙への出力はできま



●「朝鮮語大辞典(補巻)」
組版担当
1981～1985年

せんでした。出力機はあまりに高価で、購入できなかったのだそうです。鄭炳采さんは入力したデータをフロッピーに入れて、浪速区のモリサワ本社に通うことになりました。出力機を借りて印画紙に打ち出してもらったためです。

ハングル電算写植システム登場



現在、漢字で書かれた原稿を、自動的に日本語・英語へ変換。

角川書店(株) 角川出版センター

角川デジタルライティング機

角川出版センター

角川書店(株) 角川出版センター

角川デジタルライティング機

角川出版センター

それだけでも大変ですが、せっかく出力機を借りても、順調に仕事が進むとは限りませんでした。データは文字だけでなく、文字の大きさや書体などのコマンドを含む、プログラムの形になっています。「その作ったプログラムが間違えていたら、機械が途中で止まる。印画紙がロールで出てくるんですけど、1ページ、2ページとずっと続けて出てくるんですけども、何か間違いがあったらそこでピタッと止まってしまうんです。そしたらそこで何かミスが発生してるということなので、そのミスを訂正しないとそこから次に行かないんです」。それを訂正して出力しての繰り返しで、時には規定の時間内に終わらず、「土曜日の午後、普通は閉まっても無理言って開けてもらおう。夜ちょっとでも遅くまでさせてもらおうとか、昼休み時間にさせてもらおうとか」。この作業をお一人でされたそうです。

1987年にリョービ(株)のRECSという新しい写植システムが導入され、ようやく社内での出力が可能になりました。また同じ頃からパソコンのワープロソフトで一部の入力作業ができるようになり、効率が上がりました。入力のオペレーターとしては、韓国出身のネイティブの女性がパートタイマーで入られることが多かったそうです。そうした方を取りまとめて仕事をしていた鄭炳采さんは、韓国語の練習にはなったけれども、いつの間にか影響されて女性語になっていると言われたこともあります、と笑っていらっしゃいました。



●1984年1月より、三修社「基礎ハンゲル」組版担当

マック導入と高仁鳳会長

しかしその頃、印刷業界にはもっと大きな風が吹き始めていました。マッキントッシュによるデスクトップ・パブリッシング(DTP)、ディスプレイ上でデザインした通りに印刷できる技術の開発です。今でこそ当たり前のことですが、それまでの電算写植機ではレイアウトの設定に限界があり、最終的な版下の作成には、手作業で

の切り貼りが不可欠でした。飾り文字や網掛けなどは専門の版下屋さんに頼むことがあり、写真を入れる時には製版屋さんに別途お願いしていたそうです。そうした作業のすべてが、マッキントッシュの登場によって、一台のパソコンでできるようになりました。これは印刷業の革命であると同時に、既存の印刷業者にとっては大きな脅威であったはずでした。

1990年に株式会社となり社名も改めたケイビーエスは、1991年にマッキントッシュを導入し、多言語印刷と翻訳に活路を見出しました。日本社会はグローバル化の入り口にあり、ハンゲルだけでなく、中国語やタイ語など様々な言語へのニーズが生まれていました。

その頃の様子を鄭炳采さんは次のように語ってくれました。「高仁鳳社長がコンピューター化のためずっと研究をされていた姿を思い出しますね。いつもそこに座っているいろんな本を読んではりました。それも印刷関係だけじゃなくて、コンピューター関係の本をもものすごく読んではったんです。ハンゲル文字の入出力に関して、高仁鳳社長が普通の写植から、電算写植を開発し、次にRECSを使って、さらにマックという、次から次へと新たなジャンルに転換したから、ケイビーエスがやってこれたんです。当時はコンピューター会社がどんどん印刷関係に参入し、時期的にも規模的にも、生き残るのが本当に難しかったです」。

鄭炳采さんは1996年に韓国民団の職員に転じ、長年関心を持ってきた民族教育の支援などに打ち込まれることになりました。林芳子専務によれば、高仁鳳会長は一番頼りにしてきた鄭炳采さんの退社を残念がり、送別会の様子もビデオカメラで撮って大事に保存されていたそうです。お話を伺いながら、鄭炳采さんの働きがあったこそケイビーエスの技術革新も可能になったことを実感しました。

鄭炳采さんは現在も韓国民団の役員としてご活躍中です。お忙しい中、長時間のインタビューに応じてくださったことを心から感謝いたします。今後もお元気で活躍されますよう祈っています。

(インタビュー実施:2021年8月29日、ケイビーエスにて。カッコ内は鄭炳采さんのご発言ですが、一部編集しています)



鄭炳采
(チョン・ビョンチェ)



- 1973年 僑文社(現ケイビーエス株)入社
- 1993年 大阪市民族講師会共同代表
- 1995年 民族教育促進協議会副代表
- 1997年 大阪市立御幸森小学校
外国人保護者会会長
- 2003年 韓国民団大阪本部文教部長
- 2009年 韓国民団大阪本部事務局長
- 2018年~現在 韓国民団大阪本部副団長
- 2003年~現在 学校法人白頭学院理事

<インタビュアー>
石川 亮太
(いしかわ りょうた)



立命館大学経営学部教授
専門分野は朝鮮半島・在日コリアンの歴史



●1988年1月新年会の後、全員集合



코로나와 층간소음

イボンノ
翻訳者 李 俸 魯

コロナと騒音トラブル

韓국의 도시부에는 아파트나 다세대주택 등이 많고, 70%가 넘는 사람들이 이러한 공동주택에 거주하고 있다. 편리성과 유지보수, 방법 측면에서 집합주택을 선호하고 있는 것으로 보이는데, 집합주택에 살다 보면 다양한 문제를 겪게 된다. 특히 심각한 것이 '소음 문제'.

소음의 대부분은 아파트나 다세대주택의 위층이나 옆집에서 발생하는 것으로, 이웃에게 커다란 고통과 갈등을 안겨주는 경우가 많다. 코로나 사태의 영향으로 집에서 재택근무나 원격수업을 하는 사람들이 늘어나는 가운데, "발소리가 너무 시끄럽다", "일이나 공부에 집중할 수 없다"는 고민을 호소하는 사람도 늘고 있고, 그 소음에 대한 보복으로 천장에 마사지기나 확성기를 설치해서 소음을 일으키기도 해서 커다란 뉴스거리가 되는 경우도 있다.

실제로 소음 문제로 인한 갈등이나 범죄는 지금까지 수도 없이 발생하고 있다. 2013년 설 연휴에는 부모님 집을 방문한 30대 형제에게 이웃 남성이 칼을 휘두른 일도 있고, 작년에는 "시끄럽다며 가스통에 불을 붙여 화재를 일으킨 사건도 있었다. 소음을 경험한 사람은 정신적·육체적 고통을 견딜 수 없다고 호소한다. 관계기관에도 민원이 줄을 잇고 있다. 환경부의 데이터에 의하면, 불만 접수 건수가 해마다 급증하고 있다고 한다. 소음에는 발소리, TV 등의 소리, 아이가 뛰어다니는 소리, 애완견 울음소리 등 다양한데, 그 중 아이가 뛰는 소리와 어른의 발소리가 80%를 넘는다. 국민권익위원회에 의한 조사에서도, 아파트 거주자 중 88%가 소음을 경험하고 있다는 사실이 밝혀졌다. 집을 구할 때 최우선으로 위층에 어떤 사람이 사는지, 어린아이는 없는지 고려한다고 한다.

하지만, 이러한 사회적 과제를 방치해서는 안 된다. 아래층 사람을 배려하지 않는 이기주의적 행동이 늘수록 공동체 생활은 더욱 피폐해져 버리기 때문이다. 무엇보다 이웃 간의 소통·배려·양보가 중요하다. 아이가 있다면 최대한 주의를 시키고, 항상 소통을 통해 이해를 구할 필요가 있다. 위층의 바닥과 아래층의 천장은 동전의 양면과 같다는 점을 이해하고, 소음을 조금이라도 줄이고, 이웃의 입장을 배려하는 지혜도 요구된다.

관련 법률 정비도 서둘러야 한다. 갈등의 조정이나 피해 보상, 소음 건축 기준의 강화 등의 대책이 필요하리라 생각한다. 특히, 이웃을 무시하는 소음 유발 행위에 대한 경계심을 높이는 것도 중요하다. 아파트나 다세대주택의 관리회사도 이러한 문제를 외면하지 말고 적극적으로 주의를 환기해야 한다. 어쨌든, 하루라도 빨리 코로나로부터 해방되고, 소음 문제에서도 가능한 한 해방되기를 기대해 본다.

韓国の都市部には、マンションや多世帯住宅などが多く、7割を超える人がこのような集合住宅に住んでいる。利便性やメンテナンス、防犯上の理由から集合住宅を好んでいるとみられるが、集合住宅に住んでいると、さまざまなトラブルに悩まされることになる。特に問題になるのが「騒音トラブル」。

騒音の大半は、マンションや多世帯住宅の上階や隣室で発生するもので、となり近所に大きな迷惑をかける場合が多い。コロナ禍の影響により、自宅でテレワークやオンライン授業をする人が増える中で、「足音がうるさい」「仕事や勉強に集中できない」という悩みを訴える人も増えているし、その騒音への仕返しとして天井にマッサージ器や拡声器を設置して騒音を起こしたりして大きなニュースのネタになることもある。

実は、騒音トラブルによるめめごとや犯罪は、今まで数えきれないほど発生している。2013年の正月には、実家を訪ねた30代の兄弟に、となりの男がナイフを振り回したり、去年には、「うるさいっ」といって、ガスボンベに火をつけて火事を起こした事件もあった。騒音を経験した人は、心身ともに耐えがたい苦痛を訴えている。関係機関にも苦情が相次いでいる。

環境部のデータによると、苦情の受付件数は、毎年急増していると言う。騒音には、足音、テレビなどの音、子どもが出す音、ペットの鳴き声など、さまざまなものがあるが、そのうち、子どもの走り回る音や大人の足音が8割を越えている。国民権益委員会の調査によっても、マンションに住む人の中で、88%が騒音を経験していることが明らかになった。部屋を探すときに、最優先で考慮するのが、上の階にどのような人が住んでいるか、子どもはいないのか、だという。

しかし、このような社会的問題を放っておいてはいけない。下層の住人に気を配らない自分勝手な行為が増えるほど、共同体生活は、より疲弊してしまうからである。何よりも、となり同士のコミュニケーション、気くばり、ゆずりあいが大切である。子どもには十分注意し、常にコミュニケーションを取りあいながら理解を求めることが必要である。上階の床と下階の天井はコインの裏表のようなものだということを理解し、騒音を少しでも軽減し、近隣住民の立場に配慮する知恵が求められる。

関連法律の整備も急ぐべきである。トラブル解決や被害補償、騒音・建築の基準強化などの対策が必要だと思う。特に、隣人を無視して騒音を立てる迷惑行為への警戒心を高めることも重要である。マンションや多世帯住宅の管理会社もこのようなトラブルから目をそらさず、積極的に注意を喚起すべきである。

とにかく、一日でも早くコロナ禍から解放され、騒音トラブルからもできるだけ解放されることを期待している。

50年分の資料整理

営業企画部 金山 麻美

昨年の夏、KBSの約50年分の刷り取りや資料をいよいよ整理することになり、社員全員でデータ入力や写真撮影などのデジタル化を行いました。実は、2018年の社屋リニューアルの際に一度これらの資料を簡単にまとめてはいたのですが、それっきり全く手をつけていませんでした。

そこへ今回、朝鮮半島・在日コリアンの歴史を研究されている立命館大学の石川亮太教授にご協力いただけることになり、本格的に整理を進める運びとなりました。

いざ始めてみてあらためてその量の多さにびっくりしましたが、ほとんどの資料は私が入社する前のもので、作業をしながら先輩方にその当時のお話をうかがったり、時代を反映した資料が出て来たりと、とても興味深かったです。

資料の種類としては、各種招待状や領収書などの細かい仕事から、書籍、記念誌などの大きな仕事までピンからキリまであり、中には専門機関に寄贈するに値するほど、歴史的・社会的価値がある資料もあると石川先生にうかがい、自分たちは今貴重な経験をさせてもらっているんだと気付かされました。

また、作業を進めるうちに、KBSが時代とともに変遷して来たようすを具体的に見ることができ、先代や諸先輩方が積み上げて来た実績に恥じないよう、より丁寧な仕事を心がけようと身の引き締まる思いがしました。

途中、芸術の理論・歴史を大学院で研究している留学生の方にもお手伝いいただいたのですが、弊社の先代のブログに掲載していたポスターを研究の一環として見たいとのことでご連絡いただいたようです。我々からすると、単なる社内資料に過ぎない100冊以上のスクラップブックを見て、宝の山のようなとおっしゃっていたのが印象的でした。また、先代が残したブログがこのようなご縁をもたらすとは、なんとも不思議な感じがします。

作業開始直後は終わりが見えず不安でしたが、たくさんの方にご協力いただきながらひとまず「刷り取り」資料の入力作業を終えることが出来ました。このあと、画像・ビデオデータの資料整理などを予定しています。

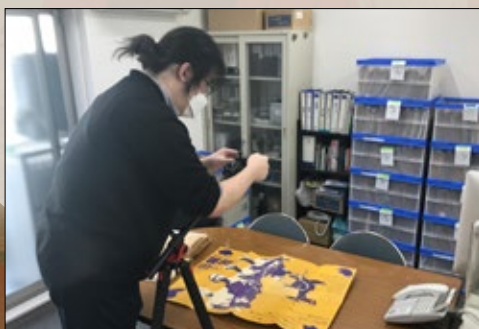
ご協力いただいたみなさん、ありがとうございます！そして社員のみなさん、お疲れさまでした！



リストをチェックしながら資料を探します



スクラップブックについてはほぼすべての資料をひとつずつ写真に撮っていきます



お手伝いいただいた留学生の具さん



刷り取りなどのコンテナ
これらに加えスクラップブックのコンテナ
がもう15箱ほど

EXPO70 から EXPO2025 へ、がんばろう！



2021年9月末
に長期にわたる
「緊急事態宣

言」が解除されてから我が家は天気の良い週末によく近場へ出掛けたりしていました。先日万博公園のコスモスフェスタを見に行くために、家族で遊びに行ってきました。実は私はシンボルである太陽の塔を何回か公園の外から見たことはありますが万博公園の中に入って見るのは初めてでした。興味深かったです。太陽の塔からコスモスフェスタの開催される花の丘へと歩いていくと道端に70年大阪万博のパビリオンの各国の名前が記載された石碑と、それらを紹介する看板を見ました。現在パビリオンは存在していませんが、跡地として設置されているみたいです。「大韓民国館」を見かけた時、私は70年大阪万博に関連するケイビーエスの歴史・あゆみを思い出しました。すぐ妻に「KBSはこの時から発展飛躍したんだよ」と紹介しました。当時ケイビーエスの前身である僑文社は70年大阪万博韓国館ポスターのカラー印刷の仕事をしたことを私は会長の講演会で初めて知りました。ここに立つと当時の会社の仕事と70年大阪万博の風景を覗くことができるとともに「なるほど、ここか。」という感慨深い気持ちになりました。

EXPO'70から半世紀。再び2025年に大阪で万国博覧会が開催される予定です。コロナの影響で2021年に東京オリンピックは無観客で開催されました。しばらくインバウンドはなかなか回復するきざしが見えません。3年半後の2025年

翻訳部 呂 咏鴻

「大阪・関西万博」はケイビーエスの起爆剤になればいいと思っています。



从EXPO70到EXPO2025, 加油!

2021年9月底持续了较长时间的“紧急事态宣言”解除后,我家经常会在天气好的周末外出去近郊游玩。前些日为了去看万博公园的大波斯菊展,全家一起去游玩了万博公园。其实我几次从公园外面看过作为其标志的太阳塔,但是进到万博公园里面去看还是头一次。还是饶有兴致的。从太阳塔往举办大波斯菊展的花之丘走去的路上,在路边看到了写着70年大阪世博会场馆各国国名的石碑和介绍该场馆的图文看板。如今场馆建筑已经不存在了,好像是作为旧址遗迹放置着。看见“大韩民国馆”的时候。我想起了与70年大阪世博会相关的KBS的历史。立刻对妻子介绍说:“KBS就是那个时候飞跃发展起来的哦!”我曾从会长的讲演会中了解到当时KBS的前身侨文社承接了70年大阪世博会韩国馆海报的彩色印刷工作。站在此处可以遥想当年公司工作和70年举办大阪世博会的场景,不由地感叹道“原来如此,就是这儿啊!”。

EXPO'70之后过了半个世纪。2025年又将在大阪举办世博会。受到新冠疫情的影响,2021年东京奥运会以无观众的形式举办完了。然而外国人访日旅游暂时还看不到恢复的迹象。希望3年半后的2025年“大阪·关西万博”能成为KBS发展的“起爆剂”。



看板もキレイになりました



ケイビーエスでは、長期休暇の前日に毎年大掃除をしています。今年は夏季休暇の前に会社の玄関前壁面を丸洗い(!?)しました。

当日は、雨が降っていましたが、(写真で1人だけ合羽を着ているのが松本です)掃除をする頃には止んできて、社員みんなでガラス面や壁をブラシや雑巾で磨きました。手の届かない2階部分もホースで勢い良く水を流していき、そんなに汚れていないと思っていましたが、実際は網戸部分から黒い水がたくさん流れてきて、驚きました。

いつもは1人でしていたのですが、(ここまで広範囲にはできませんでしたが)今年は社員全員が掃除に協力してくれたので、あっという間に終わりピカピカになりました!

勢いよく水をかけていきます

会社の大掃除

総務部 松本 佳代子

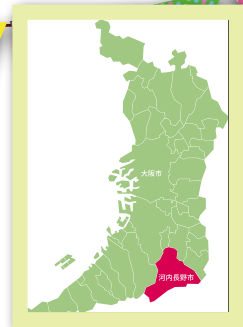
わが町 “河内長野”

制作部 稲木 隆文



市の樹は、楠(くすのき)

「クスノキ」は楠木氏ゆかりの地にふさわしく、歴史ゆかしい常緑樹で、たくましく発展する河内長野を象徴する。



大阪の右下！

みなさんは「河内長野」という市をご存知でしょうか？おそらく大阪府に住んでる方でもほとんど知られていない市だと思います。そこで今回はわが町“河内長野”を紹介したいと思います。

河内長野のここがスゴイ！

1. 災害に強い！

山なので地盤が固く地震に強いです。海から遠いので南海トラフが動いたとしても洪水の心配もありません。大きな河川もなく氾濫の危険も少ないです。また東と南に山があるので台風の影響も少ないです。

2. 治安がいい！

大阪府の市ではダントツで犯罪率が低いです。公式HPにも「令和元年、2年の犯罪発生率（人口10万人あたりの刑法犯罪認知件数）が大阪府内で最も低い！」と書かれています。

3. 難波まで30分で行ける！

南海高野線に乗れば30分で難波まで行くことができ、近鉄電車も通っているので天王寺・阿部野橋へも行くこともできます。ちなみに関西空港までバス1本で行けます。

4. 文化財が多い！

国宝・重要文化財数が全国で12番目に多い市です。楠木正成や後村上天皇ゆかりの観心寺が有名です。大阪府下(政令市をのぞく)で一番広い市、河内長野を少しでも知っていただけたら嬉しいです。

三十路の秋

営業企画部 金山 麻美

4回目の緊急事態宣言が明けた昨年10月、約1年ぶりに親しい友人たちと会うことができ、うち1人が同年2月に出産したばかりということ、お祝いがてら赤ちゃんに会いに自宅におじゃましました。

ただ、その赤ちゃん、かなりの人見知りで、興味津々でこちらをじーっと見てはくれるのですが、少しでも近寄ったり触れようとするとう泣き出してしまい、結局一度も抱っこ出来ずに帰ってきました(涙) コロナ禍ということもあり、家族以外の人にはほとんど会わせられていないとのこと。赤の他人が急にきて、無理やり距離を詰めようとするそりゃそうなりますよね(汗)

一つ驚いたのが、友人が作る離乳食。各食材の量や割合が数グラム単位で計算されていて、バランスの取れた献立を1週間毎に考えているそう。感心すると同時に、もし将来自分に子どもができたとき、果たし

て同じように出来るのかと不安を覚える三十路の秋でありました。

Last October, after the fourth declaration of emergency due to COVID-19 was lifted, I was able to meet up with some close friends for the first time in about a year. One of them had just given birth in February of the same year and we went to see the baby to celebrate.

However, the baby was quite shy, and although she stared at us with great interest, she started crying if we tried to get close or touch her even a little bit, and we ended up heading home without being able to hold her even once. No wonder that happened since she hasn't met many people outside of her family because of COVID-19. I hope this inconvenient situation will end very soon.

One thing that surprised me at that time was the food my friend makes for her baby. The amount and proportion of each ingredient is calculated to the nearest few grams, and she makes a balanced menu for her baby every week. I was impressed, but at the same time, I wondered if I would be able to do the same if I had a child in the future.



“Where there’s a will, there’s a way.”

—— 全永女先生ライフ・ヒストリーの聞き取りに参加して ——

総務部 林 芳子

全永女先生は、亡き高仁鳳会長の母校・建国高校の恩師だ。学校を退職された後自宅で学習塾を開かれ、息子も高校受験のときお世話になった。

ある日教え子の金美優さんが先生をYosugaに連れて行った。ここは、大阪市立御幸森小学校の教師だった足立須香さんが定年退職後、「まちの拠り所Yosuga（よすが）」を開設されていた。

全先生は高齢ながら一人住まいで、教え子たちが心配して訪ねて行っては食事に誘ったり、差入れをしったりしていた。その日もYosugaで話をしたり、本を見たりしてはどうかと連れ出したと言う。

全先生の話聞いた足立さんが、「ぜひ聞き取り調査をしたい」と提案。さっそく大阪市外国人教育研究協議会事務局の岩本典子さんにも声をかけ、2020年7月15日KBSまでに集まってお話を聞く機会をもった。そして録音のテープ起こしを、「マダンの児」の出版記念会のときに参加された石川亮太さん（立命館大学経営学部教授）にお願いした。

10月12日2回目の聞き取りには石川さん、金美優さん（元大阪市立北鶴橋小学校民族講師）も参加。今回のテープ起こしも石川さんが担当してくださった。そして、全先生の生きざまをぜひ多くの方々に読んでもらいたいと相談した。石川さんが立命館大学経営学

部紀要に掲載してはどうかと提案し、その方向で動き出した。それに際し、以前に全先生がKBSでの文章教室に参加されたとき書かれた文章がとても役立った。

全先生は、1932年韓国済州島で生まれ、3歳で母たちと渡日、大阪で小学校へ入学、終戦後の1946年開校したばかりの建国中学校に入学、高校を経て、府立大阪女子大学を卒業。母校で数学の教師として勤められた。

その体験を素朴に書いているだけだが、「学校に行きたい」「勉強したい」という強い意志とそれによって引き起こされた母との別れ、その事実の重みというか、事実そのものに圧倒される。そのひたむきさが周りの人たちをして助けの手を差し伸べさせ、引き寄せたのではないか。小柄でいつもにこにこされている先生の、どこにそのような情熱と決断力が秘められていたのか。先生がよく言っていた“Where there’s a will, there’s a way.”（意志あるところに道は開ける）。90歳になる今も少女のような笑顔でおられる。

全永女先生の論文は、2022年1月、「在日コリアン1世女性のライフ・ヒストリー——全永女（1932年生）の手記を中心に——」（石川亮太（著）、『立命館経営学』第60巻第5号）として掲載される予定である。同大学HPにも載せられ閲覧できるそうだ（※）。ぜひアクセスしてご覧いただければ幸いです。

※「立命館学術成果レポジトリ」（<https://ritsume.repo.nii.ac.jp/>）から、論文タイトルまたは「全永女」などのキーワードで検索可能



年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。

年末年始を下記の通り休業させていただきます。

新しい年も、なにとぞお引き立てのほどよろしくごお願い申し上げます。

12月29日(水)～1月4日(火)

1月5日(水)午前中営業、1月6日(木)より平常通り営業いたします。



【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

発行日 2022年1月1日

発行／編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL <http://www.kbsjapan.com/>

編集後記

● 毎回編集長を担当する際は、何かのヒントになればと思い過去のナルゲを読み返します。通常であれば、毎年何かしらの社内イベントがあり全体的にバラエティに富んだ内容になるのですが、ここ1、2年は社内行事がほとんどありませんでした。そのため、今回は特にどのような仕上がりになるのか想像できませんでした。みなさんの協力もありおかげさまでなんとか形にすることができました。2021年はKBSの歴史に触れる機会が多く、たまには立ち止まって振り返ることも大切だなと感じた年でした。2022年は真年にふさわしく、疫病退散、何事にも勢いがつく年になればと願います。（金山）

● 今年もコロナウイルス一色の1年でしたけどワクチン摂取も進み少しずつ光が見えてきた気がします。2022年は飲み薬が開発されてコロナウイルスが過去の病気になればと願っています。（稲木）